

Book Review



クラウンブリッジの臨床

原著第4版

Stephen F. Rosenstiel, Martin F. Land 著

藤本順平 共著・監訳

岡野昌治・菅野英也・千ヶ崎乙文 訳

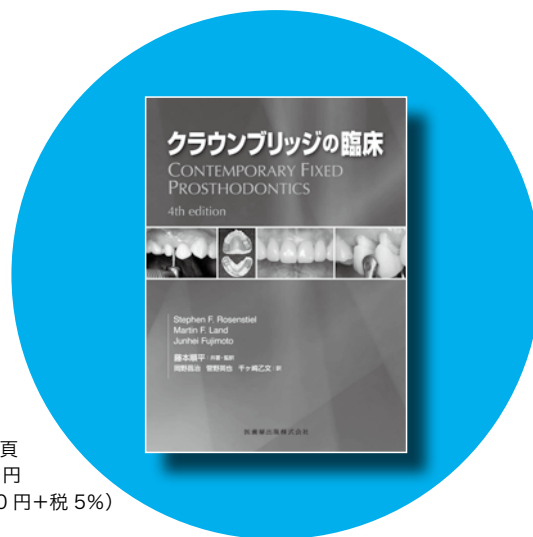


Reviewer

古谷野 潔

(九州大学大学院歯学研究院 インプラント・義歯補綴学分野)

A4判, 944頁
定価 39,900円
(本体 38,000円+税 5%)
医歯薬出版刊



本書の共著者であり、監訳者でもある藤本順平先生の名前を知ったのは、私が大学院生として下顎運動の研究に没頭していた頃を読んだ論文を通してである。当時、米国のフロリダ大学で教鞭をとっていた藤本先生が HC Lundeen, CH Gibbs らと書かれた下顎運動に関するその論文は、世界をリードするものであり、憧れをもって読んでいた。

本書は藤本先生が、米国でともに教鞭をとっていた Dr. Rosenstiel, Dr. Land とともに米国における固定性歯冠補綴学の教科書として執筆した『クラウンブリッジの臨床』の第4版である。初版(1988年発刊)で私も勉強させていただいたが、本書はその後、6カ国語に翻訳され、世界中で22年間の長きにわたって、クラウンブリッジの教科書として揺るぎない地位を守り続けている。

第4版で私が驚かされたことは、読みやすさ、見やすさである。第4版から全頁がフルカラーとなり、すべての写真がモノクロからカラーに変更され、それらがきれいにレイアウトされているため、本書は900頁以上もあ

る教科書でありながら、読みやすいものとなっている。また、単に見やすくなっただけではなく、原著者らが述べているように、カラー化は本書のすべての図や写真の背後にある理論的根拠を改めて問い直す機会となったようで、結果として内容もより明快になっている。

本書には、教科書としてのさまざまな工夫がなされている。章の初めにはキーワードが記載され、一つひとつの項目は長い文章を避け、簡潔にまとめられている。また、表にしたほうが理解しやすいものは表にまとめられている。たとえば、一連の「形成」の章ではまとめが表に記されており、他と比較しやすく、とても理解しやすい。章末にある「Study Questions」の設置も有用である。何が理解できて、何が理解できていないのか、読者は理解度を自己評価でき、それらをフィードバックして学習することで、理解が深まる。

そして、本書には引用文献が多く、100以上の文献が引用されている章もある。これはまさに、著者らがEBDの概念を実践している証拠であり、本書が臨床家ばかりでなく、研究者から

も支持を得ているゆえんである。

内容も、クラウンブリッジにとどまらず、5・6章では解剖から歯周外科手術まで幅広く記述され、またインプラント補綴治療やオールセラミック修復物の章が加えられた。23章は色彩について記述されているが、歯科補綴学の教科書でこれだけ詳しいものはないといってもよいだろう。そして、治療の長期成功の鍵である「術後管理」については、1つの章としてまとめられている。臨床家にとって有用な情報を提供するとともに、若い歯科医師には治療内容の新たな提示方法や、長年にわたって経過観察することの意義が示されている。

本書を一言でいうと、「読者のことを考えて丁寧に丁寧に執筆されたクラウンブリッジの教科書」である。本書からは著者や監訳者の後輩読者に対する愛情と歯学教育に対する情熱が感じられる。

著者らの教育の集大成であり、ベストセラー小説のように読者を飽きさせない教科書である。ぜひとも多くの歯科関係者に手に取っていただきたい一冊である。